

## 佐世保市教育委員会の自己点検及び評価について

外部評価者（B） 中野はるみ（長崎国際大学）

### はじめに

母親の育児放棄により幼児が餓死するという恐るべき事態が発生した。幼児や児童の受難の時が始っている。生まれない方が良かったという恐ろしいことばが人々の口に上る。戦争中でも飢饉でもないのに、誰の目にも看取られずに幼児や老人が亡くなっていくという痛ましさは、尋常の人間性を失ってしまった人が存在し、地域コミュニティが崩壊している状況を物語っている。

教育がなさねばならないことは、あるべき人間造りである。お互いの生命を尊重しあいながら、個々人の生が全うできる社会を造りあげねばならないからである。佐世保市教育委員会がなさねばならないことは、その活動の中心に「あるべき人間造り」という大原則を置き、そのコアから派生するさまざまな教育行政活動を推進し、さらには監視役としての機能を果たすことも期待されている。国の諸政策や産業形態がどのように変わろうとも、「人間が人間らしくあれかし」と望み、人間社会が豊かに存続するための知・情・意・体を育て続ける教育部門は、不変でなくてはならないからである。

特に、義務教育に責任をもつ地方行政である教育委員会の任務は、次代を担う人間を育てる基本の教育部門であるから非常に重要である。さらに、今日の問題となっている地域コミュニティの再生を担う中心的な機関となって、その責務を負わなくてはならなくなってきた。そのような使命を委員会と所轄部署のメンバーが自覚することは大切だが、それに加えて、地域住民が自分たちの意見を積極的に委員会に反映させようとする機運づくりと、そうし易いシステム作りを並行して進めていかなければならないだろう。

本年は、3年間の外部評価の中間の年にあたり、特に上記の視点から評価を加えてみることにしたい。

### I. 内部評価結果（総括）に関して

内部評価によれば、平成 21 年度は、「教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興」に努め、概ねその職務が果たせたということである。また、「今までの自己点検及び評価を行った結果を受け、改善に取り組んでいる」とある。上記の総括は適正である。

「教育水準の維持向上と地域の実情に応じた教育の振興」に関しては、「情報教育推進事業」「小学校施設整備事業」「小中学校管理運営事業」「小中学校施設維持改修事業」に特に力点を置いて事業展開をしたことが評価できる。それらは、学校の多様な課題や環境変化に対応するための施策であり、施設の老朽化に対応する設備整備など、平成 21 年度になさね

ばならない施策であった。

また、前年度までの自己点検及び評価の結果に対する対応は堅実であり、「改善に取り組む」姿勢も、その成果指標（目標）設定に顕れているし、事業ごとの「事務事業評価・改善シート」の記帳でも顕現されている。

## Ⅱ. 教育委員会の活動状況（評価シート①）に関して

本年度の評価シート①の特質は、「内部評価結果」の4番目に記載している「前期委員会の位置づけを原則として勉強会としたこと」であり、委員各自の「任務遂行」上、非常に有意義であったとのことである。平成21年9月前期教育委員会の席で「前期教育委員会をテーマを決め、個別具体的な勉強会を行っていききたい」と委員長が要望している。その後の勉強会の中味は下記のとおりである。

- ・10月前期教育委員会（10/13）開かれた教育委員会の在り方について
- ・12月前期教育委員会（12/11）予算の制度について
- ・3月前期教育委員会（3/3）①スポーツ振興課の施策について  
（体育振興会と体育協会の合併）  
②子ども読書活動推進計画について

それぞれ、タイムリーな勉強会内容であり、事務局が用意した3回の資料のどれをとっても、充実した内容である（10月10ページ、12月19ページ、3月37ページと41ページ）。委員各位の熱意と、それに的確に対応した事務局の姿勢は評価できる。地域住民を代表する教育委員自らが「開かれた行政のあり方」を追求し、資料の提示を要求していけば、教育行政全体に緊張感が生まれ、関係者の意識も深まるだろう。

本年度の委員会開催数は23回であったが、江迎町と鹿町の教育委員会との意見交換やその他の議事内容が盛りだくさんだったので、勉強会は上記3回に留まったようである。当初の計画に入っていた「教職員の負担軽減について」「学力テスト及び体力テストについて」「二学期制の総括について」など、これから勉強していききたいという課題が残されているようなので、これからも積極的に続けていただきたいが、できれば、このような勉強会にこそ、傍聴者を募り市民の教育行政についての認識を高めるよう、広報活動を活発にしてほしい。ネット上や広報誌での公開はもちろんであるが、学校訪問時など顔の見える場での情報提供が望まれるだろう。

つぎに、学校訪問数であるが、平成20年度に比べ大幅に減っていることに気づかされる。小学校が11校から6校に、中学校が8校から4校になっており、約半数に減少しているのである。委員の欠席率は減っているが、委員の数よりも訪問校数の方が重要である。なぜ訪問校を減らしたのかが問われよう。「学校訪問については、出席率が上昇したことから、一定の改善が図られたといえる」という内部評価結果には疑問が残る。

ちなみに、平成19年度は、小学校10校、中学校6校であった。だから、一昨年に比べ

でも少ないのである。訪問回数の適正数はどの程度なのかの検討が必要であるに違いないが、筆者は、教育委員会の学校訪問は多ければ多いに超したことはないと思っている。教育現場にいる教員は、ややもすれば「お山の大将」になりがちである。行政だけではなく地域住民を代表する委員会メンバーの厳しい視線は、教員にそれなりのいい緊張感を生んでいくし、生徒たちにとってもいい刺激となるにちがいない。1校に全員が行くという出席率の向上よりも、メンバーの半数でより多くの学校を訪問する方が効果があるのではないだろうか。その試みはすでに始まっていて、委員各位が勸んで各学校に足を運んでいるようすは、表1「H20年度とH21年度の佐世保市教員委員の小学校訪問一覧」と表2「H20年度とH21年度の佐世保市教員委員の中学校訪問一覧」から見て取れる。本年度も6月の「心の月間」には、13校を訪問していることは高く評価できる。しかし、いずれも昨年度より訪問校が減っているのはどのような関係なのだろうか。

本年度は首長との意見交換が9月24日に行われているのは申し分ないことである。委員各位の真面目な諸活動は本年度も非常に高く評価できる。委員長がしっかりと委員各位のニーズを把握し、多くの議案を無理なく処理し、委員会活動の活性化に努めていることの表れだろう。しかし、さらに欲をいえば、委員各位と同様に教育行政に熱心に耳を傾ける地域住民の育成が必要であり、一人でも多くの傍聴者を増やす施策を積極的に展開してもらいたい。HPの充実などアイディアの段階のものを一つずつ実行に移していけば、そう遠くない将来、傍聴者は現れるはずである。こんなにも心が貧しくなり教育の大切さが身にみている時代は今までになかったのだから。

### Ⅲ. 教育委員会が管理・執行する事務（評価シート②）に関して

平成21年度の改善点として、「予算案件を財務部折衝以前に協議した」点があげられている。確かに、5月、7月、8月に「佐世保市一般会計補正予算について」という議題で、事務局から詳細な説明があり、その後活発な討議がなされている。それにより、首長との意見交換が9月24日に実現している。今までは予算の復活折衝前段でしか協議がなしえなかったわけであるから、この改善点は画期的である。

議題総件数は、平成20年度が134件で、平成21年度が139件であるので、5件増加している。特筆すべきは、「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見を申出ること」で、17件も増加している。このように、予算に関わる議題が増えるとともに、予算に関する勉強会の必要性はさらに強くなっていったものと思われる。内部評価結果にあるとおり、いずれも活発な議論が交わされている。筆者に評価資料として渡された議事録のページ数は平成20年度が26回の委員会で133ページであり、平成21年度は23回の委員会で240ページ（次第と資料含む）なので、昨年度と同じように活発な議事進行であったことが伺えるし、その議事内容も事務局をたじろがせる場面も見受けられる。内部評価結果は適切である。

#### IV. 教育委員会が管理・執行する事務（評価シート③）に関して

本年度の評価シート③には、87 の事務事業が実施され、それぞれに詳細な内部評価がなされている。21 年度からの新規事業は下記の 5 件である。

1. 特別支援教育相談事業
2. 学校給食費未納対策事業
3. 学校給食施設整備事業
4. 中学校統合事業
5. 体育館建設事業

これらは、それぞれ現佐世保市教育行政の必須の事業であり、また、それぞれに非常に適切に実態に即した支援や対処がなされ、整備、統合、建設事業もそれぞれの進捗状況も問題なく推移している。

他の 82 件の事業中、成果指標（実績）が前年度より大幅に下回っている事業は見られない。それらは、また成果指標（目標）とも大きくずれているものもない。事業に対する透徹した遂行目標の基での施行事業であることが判る。昨年度の内部評価、外部評価を活かした実績となっている。だから、それぞれの本年度の内部評価も頷ける評価が詳細に記されているし、平成 22 年度に向けた改善策まで挙げられていて、それぞれの事業の達成年度へ向けた事業展開の途上が判るものとなっている。「生涯スポーツ活動の推進」は、健康志向の高まりとともに重要な施策部門になっているが、順調な振興策と展開である。

これからの課題となる事業はやはり、これまでとは質を変えねばならない事業である「生涯学習のまちづくり」に関わる事業だろう。「徳育」や「教育コミュニティづくり」そして「地域コミュニティづくり」と関わった事業展開が望まれるからである。社会教育事業へのさらなる知恵と力の集中が必要になるときであろう。それにしても、本年度の教育委員会が管理・執行を教育長に委任した事務（評価シート③）は、その行政事務と施策を巧緻に運営してきたことが判る内部評価となっていて、次年度からの改善点にまで踏み込んだものであり、高く評価できる。

#### おわりに

以上、見てきたように、委員各自はそれぞれ任務に忠実に委員としての義務を遂行しているし、「勉強会」という学びの中で着実に成熟度を増しているように拝見できる。しかし、教育委員会のメンバーは、それぞれが成長するだけでなく、地域住民の教育行政に対する意識を向上させる任務も受け持たねばならないだろう。それには、議事録や委員会開催日時の HP 掲載に留まらず、委員会の傍聴者を増やす努力が必要である。地域住民が誰も傍聴に来ないということは、曜日・時間帯・開催場所などの運営上の問題点だけではなく、

PTA や地域住民への「教育委員会」自体の広報活動が足りないということである。

教育委員会は「佐世保の明日の地域コミュニティ」を作るために非常に重要な機関である。このような機関があることを地域住民が認知するためには、一人でも多くの保護者や地域住民が傍聴に訪れる必要がある。それが、佐世保市教育委員会の質の向上の顕れともなるし、さらなる質的向上のために役立つからである。多くの人の目が教育行政と自己点検と評価に注がれば注がれるだけ、佐世保市教育委員会の目指す「心豊かな人を育むまちづくり」の方針の確かさが実証されることになる。

次の指標に向っての着実な歩みを期待する。

表 1 H20 年度と H21 年度の佐世保市教員委員の小学校訪問一覧

N. O.	小学校名	VSA	SA	A	B	C	その他	
1	宮			10/29			6/27	
2	三川内			11/16			7/25	
3	広 田						6/27	
4	花 高			11/12				5/24
5	早 岐			7/7				
6	江 上			7/3				
7	針 尾			7/14				
8	大 塔							6/25
9	黒 髪							
10	日 宇							
11	天 神				7/14		6/27	
12	港						6/24	6/9
13	福 石				7/14			
14	木 風						6/24	
15	潮 見							
16	白南風						6/25	
17	小佐世保				7/15		6/30	6/12
18	祇園				10/1			
19	山 手				9/29		7/2	
20	烏帽子分校							
21	春 日			6/9				
22	清 水							11/11
23	大久保			7/9				6/1
24	金比良							11/13

25	大野			11/25			6/24	6/26
26	柚木						11/28	
27	世知原			11/11		10/6	6/23	5/19
							6/27	6/30
28	赤崎							
29	船越						6/17	6/27
30	庵浦						6/18	6/11
31	俵浦							
32	日野							6/12
33	黒島					6/2		
34	浅子			6/3				
35	相浦							
36	高島分校							
37	相浦西							
38	大崎分校							
39	中里			11/19				6/26
40	皆瀬			6/10			6/27	
41	吉井南			7/8			7/1	
42	吉井北	6/11					6/26	
43	宇久							
44	神浦							
45	小佐々			11/26			7/11	
46	楠栖		11/27 10/21				7/1	7/1
計	H20年度 34校 H21年度 26校	1校	1校 1校	9校 6校	2校 3校	1校 1校	20校	15校

(教育委員会資料より筆者作成・黒字はH20年度、赤字はH21年度)

表2 H20年度とH21年度の佐世保市教員委員の中学校訪問一覧

N. O.	中学校名	VSA	SA	A	B	C	その他	
1	宮							
2	三川内							
3	広田			10/22			6/19	
4	早岐			11/20			6/26	
5	東明			10/19				
6	日宇			10/22				

7	崎辺			7/13				
8	福石			11/21				
9	山澄							
10	旭			7/3				
11	花園				10/29	6/20	6/19	
					11/25	7/30	9/27	
12	清水					6/20	11/19	
13	光海			10/15		6/20		
14	愛宕		11/18					6/1
15	野崎							
16	黒島							
17	浅子			(6/3)				
18	日野				11/2			
19	相浦				11/12			
20	中里			11/14				
21	大野				10/20	10/20		
22	柚木							
23	吉井			9/24		6/27	6/25	5/19
24	世知原					10/26	6/29	
							10/25・	
						11/4	11/9	
25	小佐々				10/9	7/4		
26	宇久			10/30				
計	H20 年度 25 校 H21 年度 15 校		1 校	8 校 4 校	4 校 2 校	12 校	9 校	

(教育委員会資料より筆者作成・黒字は H20 年度、赤字は H21 年度)

ブロック体の学校へは平成 20 年度と 21 年度に訪れていない。